

《目的》本研究は、1歳0ヶ月時から3歳0ヶ月時までの子どもと母親のままごと遊びを縦断的に分析することによって、子どもの持つスキットの構造とその特徴を明らかにするとともに、母子間のスキットの伝承・獲得過程について明らかにすることを目的としている。すでに1歳0ヶ月児と母親のままごと遊びの分析結果から、1歳0ヶ月児のスキットは、日常生活の主要行為である「食べる」「飲む」に集中し、母親からはその行為を促すスキットや意味づけするスキットが多く表出することが明らかになっている。また、スキットの構造化に対して母親の寄与が大きいこと、母親のスキットが子どもの行為を促し、強化することが示唆されている(吉澤・大瀧・松村, 2001)。

本発表では1歳0ヶ月児の結果をふまえ、2歳0ヶ月児のままごと遊びにおけるスキットの構造と特徴及びスキットの構造化に関する母親の関わりについて明らかにする。《方法》対象者は、上越市周辺地域に在住する2歳0ヶ月児(±2週間)とその母親47組である。玩具を設置した観察室での自由遊びの様子をVTRに録画し、ままごと遊び場面を抽出し分析対象とした。分析には、吉澤ら(2001)が作成した、スキットの構成要素であるスキットをチェックするカテゴリーを用いた。カテゴリーの分類にあたっては、映像をコンピュータ画面に取り込み、5秒毎にファイルを作成し、各ファイル画面における発話・行為の発生頻度をチェックした。

《結果》2歳0ヶ月児のままごと遊びにおけるスキットは、「食べる」「飲む」ことに加えて、母親との対応等のスキットによって構成されていることが明らかになった。